

# 石巻日日こども新聞

発行 公益財団法人 石巻日日こどもみらい研究所  
〒986-0874 宮城県石巻市双葉町8-17  
info@kodomokisha.net

コラボレーションパートナー  
宮城県石巻市双葉町8-17  
〒986-0874 宮城県石巻市双葉町8-17  
☎0225-95-5231  
FAX 0225-94-5960

コラボレーションパートナー  
特定非営利活動法人 NPO日本児童工務協会  
風の子応援プロジェクト

助成 JCB  
「5」のつく日JCBで復興支援

助成 3.11メモリアルネットワーク協会  
JT NPO復興プロジェクト助成

## 映画「春をかさねて」上映会

# もう一度あたたかい春を

今年3月21日、旧蔵丸商店街石巻市中央で、自主制作映画「春をかさねて」の上映会が行われた。映画の制作を手がけたのは石巻市出身の佐藤そのみさん。東日本大震災での自身の経験をもとに映画を制作した。その思いを取材した。

佐藤さんは小さい頃の環境が大きく変わっ  
てしまった。みなさんは  
が好きで、小学6年生  
児童74人と教職員10人  
の時にはすでに映画  
を撮ることを志してい  
た。中学2年生だった  
2011年、東日本大  
震災がおきて、佐藤さん  
はすべてなくなつてし  
まった。しかし、記憶に  
残る美しい自然、そこ  
に暮らすあたたかい人  
たちを自分の手で撮り  
たい。映像にしたいと

「れい」。そして、2人を  
つむ大川地区の自然  
と人々の物語である。  
震災によって奪われたも  
の、震災がもたらしたも  
の、静かな日常を、一変  
させた。あの日が、少  
女たちの等身大の目線  
で描かれていく。丁寧  
に映された大川地区の  
風景、人びとの繊細な  
気持ちの変化、紡ぎだ  
された言葉のひらりと  
つが深く美しい作品に  
仕上がっている。  
佐藤さんが、上映会  
を右巻で開催しようと  
決めたのは、地元の人に  
見てほしいという強い  
思いがあったからだ。  
「あの日から心を閉ざ  
してしまつた人、言葉を  
失せてしまった人、言葉  
が大川地区にたくま



ゆうみ(右)とれいの2人の少女を通して大川地区を描く



旧大川小学校校庭での撮影風景



谷地地区土手での撮影風景



背中でゆうみの繊細な感情を表現した

### ゆうみとわたし

「春をかさねて」の主人公のゆうみは私が演じました。私は小学校5年生から演劇を始めました。北海道から石巻に引っ越してきた時、同じ年の友達を作れる機会になるだろうから、と母が勧めてくれたのです。以来、母と一緒に「スマイル」はまだ旅の途中」という劇団に所属し、演劇活動を通じています。なにも考えずに役と対話ができることが演劇の魅力だと思っています。2018年に開催された劇団の公演後、見に来ていた佐藤そのみさんが、直接声をかけてくださいました。映像

作品の経験はなかったのですが、挑戦してみたいと思いました。舞台では、時間の流れが一方通行で止まることはありません。でも、映像を作る際には、撮る順番も時間もカメラの位置もすべて自分で決める必要があります。それが舞台とは大きく違い、非常に難しく、大変です。撮影当時私は中学3年生。私が演じた「ゆうみ」は中学3年生の設定で、同じ年です。ゆ



主人公は同世代、でも同世代には思えないその感情をどのように表現するかが課題だった

佐藤そのみ  
宮城県石巻市生まれ。大川小学校、大川中学校、石巻高校、日本大学芸術学部卒業。大学在学中の2018-2019年に、劇映画「春をかさねて」を自主制作。東京在住。

取材文  
藤藤小枝  
短文読者の生活



映画の告知に使われた大川地区のイラストは佐藤さんのお母さんが描いた。大川地区に実在する場所でもあり、劇中にも2回登場している